

開催地名：愛媛県久方高原町	
開催日時	令和元年 11 月 6 日（水） 19:30～21:00
開催場所	久万町民館
語り部	菅野 和夫 （岩手県宮古市）
参加者	地域住民（自主防災組織、防災士）・町職員・防災関係機関 約 70 名
開催経緯	<p>本町は大規模災害の被災経験がなく、集中豪雨や台風災害は発生するものの、人的被害等までは発生しておらず、町民一人ひとりの災害に対する意識、備えが十分とはいえない状況である。今後発生が予想される南海トラフ地震や平成 30 年 7 月豪雨のような大規模災害が発生した場合、『自助』『共助』『公助』が全く機能しないことが危惧される。東日本大震災の語り部のお話を伺うことで、災害に対する備えや、防災のためにできることについて考えるきっかけとしたい。</p>
内容	<p>（１）東日本大震災現地からの報告</p> <p>日本は災害救助法に則った仕組みができています。だから後のことは考えず、とにかく逃げるのが大切である。災害時には、道路が通行止めになることに危機意識を持つことが大切である。瓦礫で通れなくなった道路の啓開、復旧は、地元、近隣市町村業者の人たちが公助でやるべきで、そうしないと救援物資は届かない。そのため、津波被災地への当町からの救援体制の確立は、平常時から考えておくべきであり、山間部の当町からの公助、自主防の共助は重要である。</p> <p>災害で命を守る行動はどうすれば良いのか。津波災害はどう対処したら良いのかは、日頃から勉強して、訓練しておかなければいけないとつくづく感じた。</p> <p>津波や豪雨、川の氾濫などは時間との競争である。私自身、常に自分がいる土地の標高は意識するようにしている。また、福島原発事故後から、放射能の線量計も持ち歩いている。自分が住んでいる場所のデータは、事前に数値を把握しておくことで災害時に役立つはずだ。近年、日本各地で自然災害が発生しているが、判断の誤りから亡くなる人も多い。自助努力で命を守るためにどうするかは、日頃から考えておくべきである。</p> <p>東日本大震災の際には、被害を受けていない地域から援助がくると思っていたが届かなかったり、内陸の息子に物資を送ってもらうように連絡をしたら、「こちらにもない」と言われたり、震災直後からしばらくの間は日本中が麻痺してしまった。どこで災害が起こっても、皆が災害を分かち合わなければいけないとつくづく思った。</p> <p>（２）避難所について</p> <p>発災すると、人はバラバラになってしまう。私自身も家族とバラバラになった。発災後避難場所で指揮を執り、避難者を地元の避難所へ、食べるものを調達しようと誘導したところ、「食料はない」と言われた。避難所は 500 名分の乾パンしか用意していなかった。そこに 1,000 名を超える避難者が押し寄せた。入れなかったの</p>

避難場所に戻り、自主防役員宅から食材を集める等、避難解除までの3日間自前で食料を調達し、避難者とともに飢えを凌いだ。備えは重要である。

聞き取り調査を行い、避難所にいる町内の人の把握に努めたが、情報を整理するのに3日かかった。誰がいるのかがなかなか掴めなかった。たくさんの報道関係者が押し寄せ、避難所に収容されている方々の人数や安否情報を聞かれても確認する暇がなかった。しかし、安否確認の情報提供は大切だと思った。避難所運営を阻害した大きな要因は、間違いなく情報不足である。情報が不足するとデマが飛び交う。情報収集手段の確立も課題だと感じた。

震災直後の避難所は、足の踏み場もないくらい込み合っていた。懐中電灯もない中で、夜は寝る暇も惜しんで水の調達に駆け回っていた。

そんな避難所の生活の中で一番困ったのは、透析患者が運ばれて来たことである。また、乳飲み子を抱えた女性たちは、子どもが泣くため、避難所からいなくなった。要介護者に対する配慮、女性に対する配慮は極めて重要であるので、平時に対応策をきちんと確立しておく必要がある。

また、被災しなかった自主防の方々を総動員して、朝から晩まで交代で握り飯を作った。最後には握力がなくなった。そういった状況の中でも、各地からの支援物資に添えられた「最後まで支援します」という小さなメモには泣かされた。ありがたかった。

一方で、小学校の保健室にけがをした人を運び入れられないかと聞くと、「教育委員会の許可が必要」と言われた。大災害時には学校を開放できるルールを作っておくべきだと思う。

(3) 最後に

震災後に思うことは、日頃からの避難訓練は非常に重要だということである。避難所には必要な物資を準備しておく必要がある。あらゆる想定を考慮した対応策を確立していくことが有効である。また、津波の映像は是非ご覧いただきたい。想像を超える恐怖を感じていただけるはずだ。



開催地より

東日本大震災を体験した語り部の生の情報を見聞きすることができ、災害の怖さや、災害への備え、避難所の運営等々について何よりの学びの機会だったと思う。